

山梨県立博物館

Yamanashi Prefectural Museum

交

い

かいじあむ通信

kai

第56号

2022年9月3日発行
山梨県立博物館

「山梨日日新聞」号外
縮刷版より

「平仮名新聞雑絵解」初号

「をとめ新聞」第1号

「甲府新聞」第10号

「峡中新聞」第1号

「東京日日新聞」第34号

「中外新報」第1号

「峡中新報」第2号

「観風新聞」第15号

「山梨日日新聞」第19959号

「山梨日日新聞」第4532号

当館蔵



かいじあむ新聞

10月15日
土曜日

発行所 山梨県立博物館
〒406-0801
笛吹市御坂町成田 1501-1
電話(055)261-2631

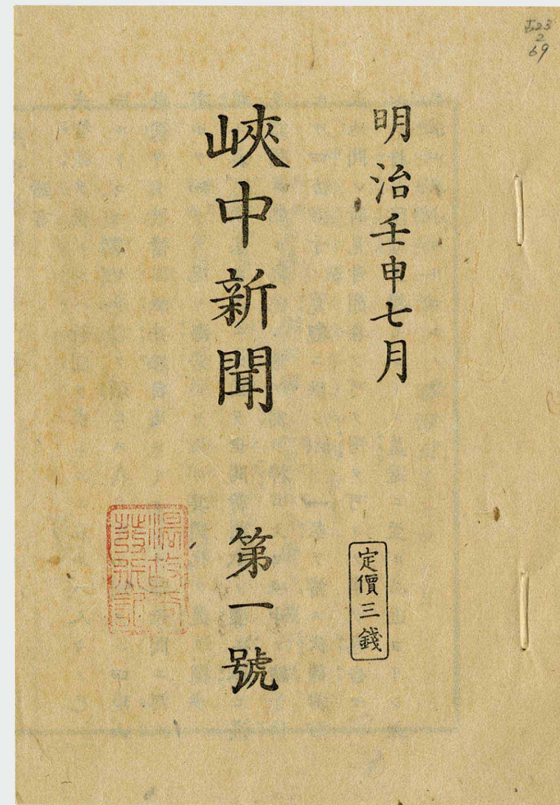
号外

詳細は展覧会会場でお確かめください

企画展 山梨と新聞

—知識を広むるは新聞を求むるに在り—

開幕



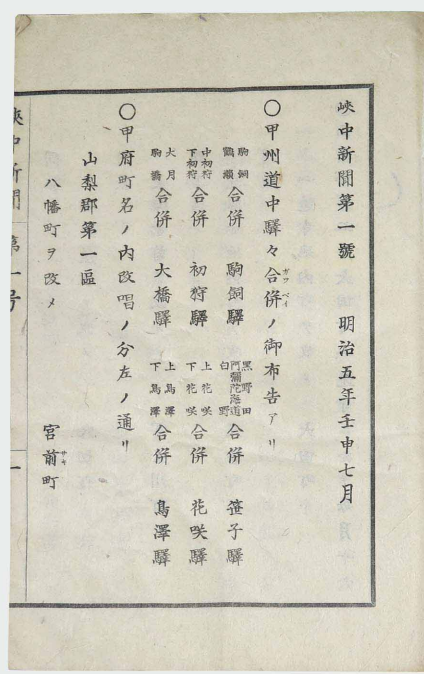
「山梨新聞」第1号 (当館蔵)

山梨県立博物館で秋期企画展「山梨と新聞—知識を広むるは新聞を求むるに在り—」が開幕した。甲府の内藤伝右衛門によって山梨で初めて刊行された「山梨新聞」などが展示されている。

「山梨新聞」は第1号が1872(明治5)年7月、第2号が同年8月、第3号は同年10月に刊行されているが、これは8月に発生した大小切騒動のためであると「山梨新聞」では説明している。以後、およそ月に1度の刊行を続けたのち、1873(明治6)年7月から活字印刷の採用などにより週2回の刊行を実現させ、1876(明治9)年1月4日からは毎日刊行されるようになった。

県内新聞の歴史 展覧会で回顧

夫智識ヲ廣ムルハ新聞ヲ求ムルニ在ルハ人々ノ已知ルトコロ喋々多言ヲ須ヒス我カ甲ノ州タル四境山嶽從ツテ氏情固陋井蛙自足レリトシテ亦世間ニ河伯有ルヲ知ラス況ヤ海若ヲヤ故ニ其開化ノ遅ヲ進歩ノ緩キ真ニ歎息ニ堪ヘス因テ世間新聞紙ノ響ニ微ヒ淺見察爾ニ頗ル勸徳ノ意ヲ寓シ梓ニ上セ峽中ノ諸子併セテ四方君子ノ覽觀ニ供シ以テ一察ヲ博ス依諸諸君天地間ノ新見奇聞喜フ可ク愕ノ可キノ事ヲ惠告セラレバ將且陸續上梓セントス蓋遠ニ至ル必近ヨリシ大ニ求ル必小ヨリスルノ意ナリ



「山梨新聞」第1号 見開き (当館蔵)

巻頭の「緒言」では人々が知識を広めるために新聞を求めていること、それに応えて新聞を刊行することなどが記されている。

「山梨新聞」第1号掲載の最初の記事は、甲州道中の駅(宿場)の合併を知らせるもので、この時はまだ政府や県の指令を広く伝達する媒体としての役割が大きかったことがわかる。「山梨新聞」の名称は、その後「甲府新聞」、「甲府日日新聞」と変わり、1881(明治14)年1月14日から「山梨日日新聞」となっており、現在に至る。

そのほかにも山梨には多数の新聞があり、明治末から大正初め頃には「山梨日日新聞」、「山梨毎日新聞」、「山梨日報」、「甲斐新聞」、「山梨民報」の5つがあった。1940(昭和15)年頃、戦時体制下の言論統制の一環として、資源や情報の一元的管理が目指されたことから、全ての新聞社が「山梨日日新聞」に合併し、

一県一紙体制が成立した。

同展にはほかにも、様々な興味深い資料が多く展示されている。学芸員の中野賢治さん(43)は、「山梨に根付いた地方メディアの歩みを通して、山梨県民の歴史を振り返る機会としてほしい」と語る。

講演会など、多数のイベントを開催予定。12月5日まで、観覧料一般500円、大学生250円、高校生以下と県内在住の65歳以上は無料。問合せは同館 ☎055(261)2631。

〈山梨博子〉

次回!シンボル展
山梨県指定文化財
木造源頼朝坐像



2023年
1月21日 土 ~ 2月20日 日

源頼朝坐像(山梨県指定文化財 龍光寺蔵)

学芸員 おすすめの一品

収蔵資料の見どころを
ご紹介します。



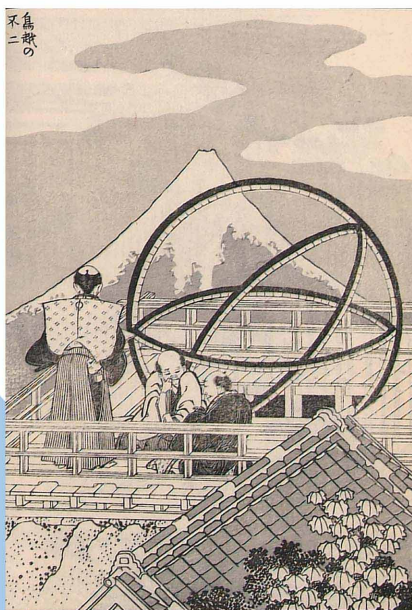
2022年12月21日
～2023年2月13日
常設展「道がつながり出合い」コーナー
この期間に会える!

12月3日を1月1日にします！ —明治の改暦から150年—

『富嶽百景 第3編』「鳥越の不二」

葛飾北斎筆 天保5～6年(1834～35)

葛飾北斎が手掛けた、富士を題材とした絵本です。浅草天文台で「渾天儀」を用いて天体の位置を測定する江戸幕府の天文方が描かれています。



それまでの暦の 決め方は…?

天文方が計算をして
作った暦が、人々の手
にいきわたっていました。

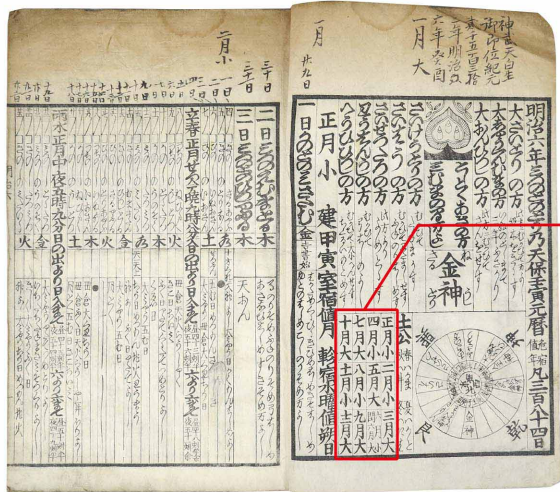
消えた4週間

カレンダーをみると、迫る予定に頭が痛くなる方もいらっしゃるかもしれませんが、視点を大きく広げてみれば、私たちの生活を律する「暦」は、天体の動きとその地球上からの見えかたで決まってくるといえます。そんな「暦」に大きな変更があったのが、今から150年前にあった明治の改暦です。当時の明治政府は、明治5年12月3日を明治6年1月1日に改めたのです。消えた4週間はどこへ!?

2月30日や閏月もあり

改暦前のわが国では、「太陰太陽暦」という月の満ち欠けを利用したものが使われ、カレンダーと月の満ち欠けがリンクしていました。満ち欠けの周期が29.5日であることから、30日間の「大の月」、29日間の「小の月」が設定されました。何月が大小のいずれかは年によりましたので、現在では存在しない2月30日もありましたし、閏月が入って13か月の年もありました。明治の改暦では、昼と夜をそれぞれ6分割していた時間の単位を(夏と冬では長さが異なる)、現在の24時間制に改めています。

「明治6年癸酉頒暦」 明治6年(1873)



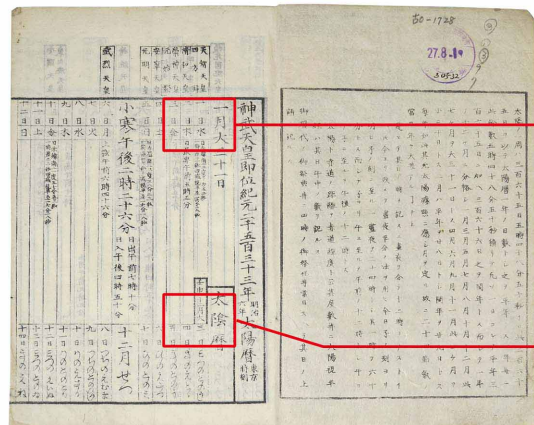
改暦 Before

改暦前に出された暦。大小月についての記載があります。

正月小	二月小	三月大
四月小	五月大	閏六月大
七月大	八月小	九月大
十月大	十一月小	十二月大

この年は閏6月があったため、古い暦のままだと官吏の月給が13か月分必要でした。

「明治6年太陽暦」 明治6年(1873)



改暦 After

改暦後に使われた太陽暦が使われた暦。

日	月	水	木	金
一	二	三	四	五
六	七	八	九	十
十一	十二	十三	十四	十五
十六	十七	十八	十九	二十
二十一	二十二	二十三	二十四	二十五
二十六	二十七	二十八	二十九	三十

12月3日が
1月1日に改め
られています。

西洋に習ったのか、経費削減か

明治の改暦はわずか1か月足らず前の11月9日に発表され、準備期間もないまま実施されました。山梨県で告示されたのは11月20日で、実行の2週間前です。その背景として、近代化を進めるなかで西洋基準の太陽暦(グレゴリオ暦)に合わせることが重要だった点が挙げられますが、財政を担っていた大隈重信が、官吏の給与が月給制になったことを踏まえ、明治5年12月と明治6年閏月分の月給を削減するために実行したともいわれています。そんな大改革から150年経ちました。なにげないカレンダーにも、さまざまな歴史が刻まれているのですね。

常設展 テーマ展示

県立博物館では、約2か月ごとにテーマを変えて、常設展の展示替えをしています。



「資料でめぐる山梨の旅」

2022.8.24[水]～10.24[月]
展示室の資料をめぐって、わくわくする旅に出发!

「やまなしの豊かな食文化」

2022.10.26[水]～12.19[月]
食欲の秋到来! 特産品のフルーツやワイン、海がないけど海産物が好きな食文化など、山梨ならではの「食」に関連した展示で皆様をお待ちしています。

「招福! かいじあむのお正月」

2022.12.21[水]～2023.2.13[月]
お正月にちなみ、「めでたい」「ありがたい」資料を取り揃えます。年の初めは博物館で招福!

「山梨の春は、桃と桜と信玄公」

2023.2.15[水]～4.17[月]
桜舞う春の中、山梨ゆかりの戦国武将、武田信玄にまつわる資料を紹介します。

2022年度
企画展
シンボル展

企画展 山梨と新聞

—知識を広むるは新聞を求むるに在り—

2022.10.15[土]～12.5[月]

明治5年(1872)に甲府の内藤伝右衛門が創刊した「こうちゅうしんぶん 峡中新聞」(現在の「山梨日日新聞」)は、今なお継続発行されている最古の地方新聞として知られています。山梨の政治・経済・文化・スポーツなどを報じ続けてきたこの地方新聞の歩みをみることで、近現代の山梨の社会や暮らしの変化を知ることができます。峡中新聞創刊から150周年となるこの機会に、山梨に根付いた地方メディアの歩みを通して、県民の歴史を振り返り、山梨の明日を展望します。



内藤伝右衛門肖像(当館蔵)

シンボル展 山梨県指定文化財 木造源頼朝坐像

2023.1.21[土]～2.20[月]

甲府市の善光寺に伝わる源頼朝像は、頼朝の肖像彫刻としては最古のものといわれ、真の頼朝の姿を伝える可能性が最も高い像として、近年注目を集めています。本展では、令和2年度に解体修理が行われた頼朝像について、修理で得られた情報なども含めて紹介します。



源頼朝坐像(山梨県指定文化財 善光寺蔵)

企画展 印章一刻まれてきた歴史と文化

2023.3.11[土]～5.8[月]

山梨県における印章産業は、水晶印に篆刻を行ったことから始まったといわれ、現在では全国一の生産量を誇ります。近年、デジタル化・オンライン化が進展する中で注目を集める印章ですが、こうした時代だからこそ、印章の役割や未来のあり方などについて歴史的、文化・芸術的な広い視点で改めて紹介し、考える機会とします。



金印「漢委奴国王」(国宝 福岡市博物館蔵)

イベントのご案内 2022.10月～2023.3月

常設展スルーガイド **先着10名**

常設展のガイドツアーです。
毎週土曜日 11:00～11:30

ボランティアによるお庭の見どころガイド

四季折々の博物館のお庭を散策します。 **先着10名**
開催日 10/15、11/19、12/17、1/21、2/18、3/18
時間 13:30～14:30 *荒天の場合は中止

かいじあむ古文書講座【3期】 **定員30名(抽選) 申込:往復はがき**

初めて古文書を学ぶ方のための講座です。
開催日(全3回) 11/26、1/28、2/25
時間 13:30～15:00
*原則として全3回参加できる方。申込:往復はがき(11月4日必着)

古文書相談日

お手持ちの古文書についてご相談ください。
開催日 1/15
*古文書の全文解読、鑑定など、お受けできない内容もあります。
*詳細は当館ホームページでご確認ください。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、展示・イベント等の日程が変更または中止になる場合があります。

あそぼう!まなぼう!寺子屋ひろば **先着6名**

展示や歴史を楽しみながら学べる体験イベントです。
毎週日曜日 11:00～11:30

かいじあむ子ども工房 **申込:電話**

博物館ならではの体験や工作ができます。
開催日 10/8、11/12、1/14、2/11、3/11
*申込:電話(☎ 055-261-2631)開催日の1か月前から受付

館長トーク **受付終了**

当館の守屋正彦館長による講座です。
開催日 10/16、12/18、2/19
時間 13:30～15:00
*申込の受付は終了しています。

その他イベント

- ・かいじあむの秋まつり 11/20
- ・かいじあむのお正月 1/2・3

2022年 10月							2022年 11月							2022年 12月								
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土		
						1				1	2	3	4	5						1	2	3
2	3	4	5	6	7	8	6	7	8	9	10	11	12	4	5	6	7	8	9	10		
9	10	11	12	13	14	15	13	14	15	16	17	18	19	11	12	13	14	15	16	17		
16	17	18	19	20	21	22	20	21	22	23	24	25	26	18	19	20	21	22	23	24		
23	24	25	26	27	28	29	27	28	29	30	25	26	27	28	29	30	31					
30	31																					

山梨の新聞 —知識を広むるは新聞を求むるに在り— 10/15～12/5

2023年 1月							2023年 2月							2023年 3月							
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	
1	2	3	4	5	6	7				1	2	3	4					1	2	3	4
8	9	10	11	12	13	14	5	6	7	8	9	10	11	5	6	7	8	9	10	11	
15	16	17	18	19	20	21	12	13	14	15	16	17	18	12	13	14	15	16	17	18	
22	23	24	25	26	27	28	19	20	21	22	23	24	25	19	20	21	22	23	24	25	
29	30	31					26	27	28	26	27	28	29	30	31						

山梨県指定文化財 木造源頼朝坐像 1/21～2/20

印章一刻まれてきた歴史と文化 3/11～5/8

往復はがきでの申込方法 下記をご記入の上、申込締切日(必着)までに当館までお送りください。
 (1) 往信 表:①当館郵便番号(406-0801)、②住所(山梨県笛吹市御坂町成田1501-1)、③館名(山梨県立博物館)
 (2) 往信 裏:①イベント名(必ずご記入ください)、②郵便番号、③住所、④氏名(ふりがな)、⑤電話番号
 (3) 返信 表:①郵便番号、②住所、③氏名



コロナにまつわるモノと 記憶を集めています！

博物館は大昔のモノだけを集めているのではありません。現代の私たちの社会の出来事や文化に関するモノや記憶を未来の山梨の人々に伝えることも、博物館の大事な仕事のひとつです。

新型コロナウイルス感染症のパンデミックは、現代の生活や文化に大きな影響を与えたという意味で私たちの「歴史的体験」であり、私たちがどのようにパンデミックに向き合ったかを後世に伝えていくことは、社会にとっても大事なことといえます。

山梨県立博物館では、県民のみなさんがお持ちの新型コロナウイルス感染症に関するモノ(資料)や、この大変な時期に体験したことや感じたことの記憶(文章・写真)を集めています。100年後の山梨の人々に向けて、多様な資料や記憶を残せるように、みなさまのご協力をお願いいたします。



新型コロナ関係収集資料の一部

- コロナにまつわるモノ(新型コロナウイルス感染症関係資料)の募集
- コロナにまつわる記憶(文章・写真)の募集
- 応募方法

当館ホームページをご確認ください。

(http://www.museum.pref.yamanashi.jp/3rd_news/3rd_news_news220226_corona.html)

【応募先】

山梨県立博物館 学芸課

〒406-0801 山梨県笛吹市御坂町成田1501-1

電話 055-261-2631 メールアドレス kenhaku@pref.yamanashi.lg.jp

新型コロナウイルス関係資料収集情報の
ページへの2次元バーコード



利用案内

開館時間 9:00～17:00(入館は16:30まで)

休館日 火曜日(祝日の場合はその翌日)

*9/14～16、12/10、12/24～1/1、1/11～13は休館。

観覧料 常設展：一般520円、大学生220円

*高校生以下の方、65歳以上の方、障害者の方(およびその介護をされる方)は無料です。

*企画展には別途観覧料が必要です。県外在住の65歳以上の方は企画展観覧料が必要です。

*ご来館の際は、検温、マスクの着用などの感染症拡大防止対策にご協力ください。

かいじあむ通信「交い」第56号

〒406-0801 山梨県笛吹市御坂町成田1501-1

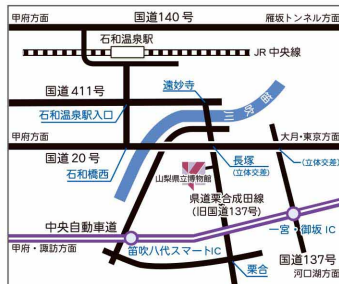
Tel: 055-261-2631 Fax: 055-261-2632

E-mail: kenhaku@pref.yamanashi.lg.jp

URL: <http://www.museum.pref.yamanashi.jp>

発行日: 2022年9月3日

編集・発行: 山梨県立博物館



山梨県立博物館
公式 Twitter
kaiseum_ypm

